前例を超えた 世田谷区の 認知症条例 「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」は、私たちのこれからの生き方・ ともに暮らす地域への道しるべです。認知症を体験した委員とともに制定し、 その思いを大切に、条例名に「やさしさ」ではなく「希望」という文字が入りま した。予防より「そなえ」。そのために、ひとりひとり、またはみんなで「希望 ファイル」をつくってみることが条文に盛り込まれました。早期発見・早期診 断が早期絶望につながってきた過去への反省から、たとえば身近な地域で 「アクションチーム」をつくる挑戦が始まろうとしています。「かわいそうな 人をサポートしてあげる」のではなく、「パートナー」としてともに生きる。 そんな世田谷をつくるために、魅力的なパネリストにご登壇いただきます。



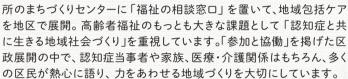
基調講演&

たんのともふみ 丹野智文さん

新著『認知症の私から見える社会』は、300人を超える 当事者との出会いから生れました。フォルクスワーゲンの 東北地区トップセールスマンだった8年前、39歳のときに アルツハイマー型認知症と大学病院で診断されました。 絶望した丹野さんが救われたのは認知症の先輩との 出会いでした。地元仙台では、「当事者の当事者による 当事者のための認知症カレッジ」など幅広く活動してい ます。社長の方針で、いまもネッツトヨタの社員。基調 講演とともにコーディネーターもしてくださいます。

ほさかのぶと 保坂展人区長

この条例には強い意欲をもって取り組み、毎回の議 論にも参加してきました。2011年4月に就任して、3 期目。「地域福祉」を重視し、世田谷区独自の28か



パネリスト

はせべやすじ



長谷部泰司さん

スーパーマーケット関連会社の社長でした。認知症の症状が表れたのは 退職した後の73歳の頃。ひとり暮らしのマンションはモノが片付かなく

なり、次女が暮らす世田谷区へ。「どうなってもいいんだ」といらだち、周りに怒りを ぶつける日々。ところが、条例検討委員となり発言が尊重されるとともに、自信を とりもどしました。条例スタートの記念シンポジウムでは「条例は大きな

> 希望になるのではないでしょうか。老人を代表してお礼を 申し上げます」と感謝の言葉を。

プロジェクト 推進チーム 世話人

- 中澤まゆみさん (情報発信担当・福祉ジャーナリスト)
- 長谷川幹さん (地域づくり担当・せたがや福祉区民学会会長)
- 遠矢純一郎さん (本人発信担当・認知症在宅生活サポート センターを運営する在宅医)
- 西田淳志さん (希望ファイル担当・世界の認知症政策に堪能)
- 永田久美子さん (企画担当・日本各地の認知症施策の応援役)
- 大熊由紀子さん (まとめ担当・志の縁結び係&小間使い)

ぬきたただよし 貫田直義さん

テレビ東京の名プロデューサー。時代を 先取りした連続企画『少子長命時代』 は、全国62カ所をロケ。歌手のアグネス ・チャンなど異色のコメンテーターを起用 し、看板番組に。テレビ東京アメリカの 社長を退職後の70歳のとき、認知症状 とともに「ソファーの後ろからゴリラが」 など幻視の症状が現れ、レビー小体型認 知症と診断されました。"講演デビュー" がきっかけで、次第によみがえり、動画 づくりではみずから脚本を書くほどに。

さわださきこ 澤田佐紀子さん

30年以上、講師として小中高・特別支援学 級で美術を教えていましたが、60歳を過ぎ てから、複数の学校や生徒を同時に把握し たり、成績を付けたりすることが難しくなり、 母親や祖母と同じアルツハイマー型認知症 であると自覚。条例検討委員会では「"サポ ーター"だと頼ってしまう。"パートナー"だと自 分も努力しようという気持ちが湧いてくる。 だから"サポーターでなく、パートナー"に」 と条例を方向づけました。佐紀子さん制作 の「願いの葉」を貼りつけていく「希望の樹」 は、認知症在宅生活サポートセンターを 訪れる人たちに絶賛されています。

会場マップ



交通アクセス

京王線•東急世田谷線下高井戸駅下車徒歩8分 (新宿・渋谷から10~12分) 京王線 桜上水駅 (急行停車駅) 下車 徒歩8~10分 (新宿・渋谷から10~12分)

